

知ろう! 仏教讃歌

(5)

山口 篤子

《みほとけにいだかれて》

詞・日曜学校同人
曲・野村成仁

亡き人偲ぶ縁として歌い継がれる

内容は控えめに表現します。しかし、この作品は、各連の後半部分において、大切な人との別れが遺された者の心のうちに引き起こした動きに、焦点を当てている点が特徴的です。

死は誰のうえにも等しく訪れるとはいえ、大切な人を亡くした悲しみが尽きることはありません。しかし、故人が

阿弥陀さまによってお浄土へ迎えとられ、そこでまた会え

るのだと聞かせていただくうちに、いつしか嘆きのうちにも安らぎが生まれ、仏さまの尊さに思いを致す——ここで綴られているのは、私たち自身が経験する心の物語です。この曲に接した人たちは、その物語にそれぞれの気持ちを重ねながら、大切な人の死を受けとめてきたのです。だからこそ、この作品が時代を超えて大切にされてきたのではないのでしょうか。これからも、亡き人を偲ぶ縁として歌い継ぎたい1曲です。

(本願寺派総合研究所 仏教音楽・儀礼研究室研究員)

お盆が過ぎ、お彼岸を迎えようとするこの時期は、今は亡き方々への思いが、1年のなかでもひとときを募る季節かもしれません。そのような折の仏教讃歌といえは、やはり《みほとけにいだかれて》が筆頭にあげられるでしょう。

この作品は、大正期の日曜学校運動において創作された「讃仏歌」のひとつで、もともとは《葬式の歌》という題名でした。改題の理由は定かではありませんが、現在の曲名は、4連からな

る詞がいずれも「みほとけに抱かれて／君ゆきぬ」と始まることに由来しています。

みなさんがこの曲を聴かれる場面の多くは、お葬式や追悼法要ではないでしょうか。

原題からは、この作品が歌われる場面をあらかじめ想定して創作されたことがうかがえ、現在ではその意図通りに習わしとして定着したといえるでしょう。このように、歌う機会の限定された曲は、一般に、個人的感情にかかわる



大谷本廟総追悼法要では、本願寺合唱団が毎年、《みほとけにいだかれて》を歌っている



収録CD：『仏教讃歌 歌集』
収録楽譜：『仏教讃歌 歌集』
(本願寺出版社刊)

※スマートフォン、タブレットなどで上記QRコードを読み込むと掲載曲を聴くことができます。ご加入のプランなどに注意してご利用ください